

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	黒田 麻衣子
2. 審査委員	主 査：（鳴門教育大学特任教授） 余 郷 裕 次 副主査：（鳴門教育大学教授） 幾 田 伸 司 委 員：（兵庫教育大学教授） 吉 川 芳 則 委 員：（鳴門教育大学教授） 田 村 隆 宏 委 員：（鳴門教育大学教授） 川 上 綾 子
3. 論文題目	前意識知覚の意識化に着目した映像メディア教育の研究 —絵本モンタージュ理論を中心に—
4. 審査結果の要旨	教科教育実践学専攻言語系教育連合講座 黒田麻衣子 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年2月20日（木）16時00分～16時40分 場所：Zoomによるオンライン開催 審査に先立ち、同日15時00分から16時00分まで公聴会を開催し、審査委員も同席した。 1. 学位論文の構成と概要 【学位論文の構成】 本研究の論文構成は、以下の通りである。 序 章 研究の目的 第1章 映像メディアが人々に与える「無意識・無自覚」な情報 第2章 国語科教育における「さし絵」の扱いと西郷竹彦の絵本論 第3章 絵本の「モンタージュ効果」 第4章 小学校国語教科書における絵本原典教材レイアウトの問題点 第5章 モンタージュ効果が絵本の「読み」に及ぼす影響 第6章 絵本の表象のしかけに着目する教材研究力の育成 第7章 絵本モンタージュ理論の動画（アニメーション映画）への応用 第8章 動画（アニメーション映画）の非意識知覚情報を活用した授業の提案 結 章 研究成果と今後の課題

【学位論文の概要】

序章では、本研究の目的を、映像メディアが見る人に対して無自覚・無意識に与える影響について、前意識関の「無自覚の知覚」に焦点を絞り、絵本のモンタージュ効果を題材に論ずることとした。

第1章では、映像の意識・無意識の知覚について整理した。現代社会は情報過多である。人間の知覚は無意識的に制御されており、多くの情報は無自覚のまま無意識に蓄積されている。意識されない情報が私たちの意思決定や行動に影響を与えることは少なくない。この章では、「見る」ことにおける無自覚な知覚について説明し、意識、前意識、無意識の定義について論じた。

第2章では、国語科教育における「さし絵」の扱いと西郷竹彦の絵本論について考察した。西郷は、絵本の読み聞かせは、「指導者と子どもたちがひとつの芸術世界のなかで、共に呼吸し、生活し、体験すること」であると述べ、「絵をよむこと」の重要性を指摘し、実践に基づいて「絵をよむ」指導方法を提案している。西郷は、絵本を絵と文の複合体で語られる文学として扱い、文学を「よむ力」を育成するための初年次の文学教材としての有効性を主張した。

第3章では、まず、絵本モンタージュを、「画面間モンタージュ」と「画面内モンタージュ」に分けて整理した。次に、国語科教育学における絵本の「表象のしかけ」研究者である余郷の「絵本のモンタージュ効果」を分析考察し、本論文における「絵本のモンタージュ効果」を定義づけた。

第4章では、小学校国語教科書における絵本原典教材レイアウトの問題点を指摘した。絵本には、見開きやページをめくることによって展開していくという絵本固有の表現構造ある。ところが教科書レイアウトは、絵本固有の表現構造を破壊し、メディア構造を「絵と文の複合テキスト」から「文字テキスト」へ転化させてしまっているという教科書編集の問題点を、具体例を挙げながら論じた。

第5章では、絵本のモンタージュ効果が絵本作品の「読み」に及ぼす影響を考察した。絵本を原典とした小学校国語科教科書教材「ニャーゴ」を題材に、特定場面の登場人物の心情理解における教科書のさし絵の影響・効果を調査した。絵本『にゃーご』と教科書教材「ニャーゴ」のレイアウトを比較し、絵本のモンタージュ効果が特定場面の心情把握に影響を及ぼした可能性について考察した。

第6章では、絵本のモンタージュ効果を含む「表象のしかけ」を学習材とした教員養成課程の授業実践とその効果を検証した。絵本のモンタージュ効果など、絵本に施された表象のしかけから無自覚に受けとっている情報も、学習によって自覚的に受けとることが可能になることを実証し、絵本という複合メディアテキストを原典とした教材を取り扱うなら、文章の読解だけでなく、絵の読解もするべきであることを提案した。

第7章では、絵本モンタージュ理論が動画の映像メディア・リテラシー獲得にどのように援用できるかを論じた。具体例として、映画『かぐや姫の物語』を取り上げ、映像表現のしかけを絵本モンタージュ理論の応用によって分析した。

第8章では、これまでの理論が古典入門期指導に応用できることを提案した。具体例として、映画『かぐや姫の物語』視聴を通して古典常識を学ぶ学習活動を提案した。

結章では、本論文の成果として、絵本のモンタージュ理論の成立過程を明らかにしたこと、それを人間の知覚と結びつけて考察したことをあげた。また、西郷の『絵本論』の考察を通して、絵本を「読む力」が、文学作品を「読む力」育成の基礎演習となることを明らかにできたことも、国語科教育にとって有益な研究成果であったといえる。さらに、絵本原典の作品が教科書教材となる際のレイアウトの変更が子どもたちの「読み」に影響を及ぼしている可能性にも言及した。

2. 審査経過

本論文では、映像メディアが見る人に対して無自覚・無意識に与える影響を、前意識関の「無自覚の知覚」に焦点を絞って、絵本のモンタージュ効果を題材に論じた。

絵本の「絵のコード（絵の読みとり）」に関する研究には、芸術論に立脚した研究は多くある。本論文では、芸術論ではなく、国語科教育の立場からの研究を中心に考察した。

(1) 研究の目的の確認と論文構成の対応について

本論文は、映像メディアが見る人に対して無自覚・無意識に与える影響を、前意識関の「無自覚の知覚」に焦点を絞って、絵本のモンタージュ効果を題材に論ずるものである。そのため、研究としては主に、1. 前意識関の「無自覚の知覚」について、2. 絵本モンタージュの効果について、3. 教師教育における映像メディアの指導についての視点から考察する構成になっており、研究目的に整合する妥当な論展開であると評価できる。

(2) 先行研究の検討と研究の方法・資料

先行研究について、先の1. 前意識関の「無自覚の知覚」について、2. 絵本モンタージュの効果について、3. 教師教育における映像メディアの指導について、整理・理論化が適切に行われている。また、資料としては、西郷竹彦の絵本モンタージュに関する論考を国語科教育史上に位置づけた意義は大きい。

(3) 考察の客観性

論文全体としては、哲学的思惟に基づく論展開であるが、教師教育における映像メディアの指導の意義と効果とについては、質問調査を行いK J法及びテキストマイニングによる分析を行い、客観性を担保した。K J法については、複数名による評価を行い、恣意性を排除する配慮が認められた。

(4) 論文の独自性と発展性

国語科教育における先行研究において、これまで「無自覚の知覚」に言及する論考はない。国語科教育の研究に、「無自覚の知覚」の視点を取り入れたことは、独自性があり、新規性に富んでいる。また、絵本の「絵のコード（絵の読みとり）」に関する研究には、芸術論に立脚した研究は多くあるが、国語科教育の立場からの研究は少ない。教師教育における映像メディアの指導を含め、今後の発展が期待できる研究領域である。

(5) 学校教育の実践への貢献

1. 前意識関の「無自覚の知覚」の考察は、今後の学校教育における映像メディア教育に示唆を与えるものである。2. 絵本モンタージュの効果の考察は、芸術論ではなく国語科教育への応用が期待できる。3. 教師教育における映像メディアの指導に関する分析は、今後の教師教育のあり方の示すものである。以上、本論文は、学校教育実践に貢献する成果であり、学校教育学の発展に寄与するといえる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は黒田麻衣子の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。